

2025 年 8 月 29 日（金）開催 学術情報流通に関する連続セミナー 第 10 回

「人文学のためのオープンサイエンス：ドイツでの体験から」

当日いただいたご質問への回答

質問 1：ドイツでは DH(digital humanities)を実践するための環境が整っているのだと感じました。公的資金が投入されているということですが、人文学研究において DH の取り組みが奨励されていたり、研究助成にあたっての要件となっていたり、そういった仕組みがあるのでしょうか？

回答 1：要件にはなっていないと思いますが、分野横断的研究やチームワークが奨励されていることもあり、自然に人文学ではデータベースを作ったり、コーパスを作ったりすることになり、デジタル人文学的なプロジェクトになることが多いです。また、講演に出てきた CLARIN や DARIAH などのデジタルインフラストラクチャプロジェクトがそういった取り組みをサポートしています。

- ・ CLARIN <https://www.clarin.eu/>

- ・ DARIAH <https://www.dariah.eu/>

質問 2：コプト語では、日本の「みんなで翻刻(<https://honkoku.org/>)」のような、市民と協働して翻刻する取り組みはあるのでしょうか。

回答 2：現在のところ Papyri.info というものがあります。また、Coptic SCRIPTORIUM も、市民の方が希望すれば、可能です。

- ・ Papyri.info <https://papyri.info/>

- ・ Coptic SCRIPTORIUM <https://copticscriptorium.org/>

質問 3：ドイツの DH(digital humanities)で一般的に用いられているメタデータスキーマは TEI のことですが、TEI 以外で先生のご専門や周囲の分野で用いられているメタデータスキーマがありましたら教えていただけますでしょうか？

回答 3：TEI はテキストマークアップの標準であり、メタデータスキーマが主眼ではありません。しかし、header にメタデータを書くことはできます。ドイツで使われているメタデータスキーマは CIDOC CRM, Dublin Core, MARC 21 などがあります。

- ・ Text Encoding Initiative <https://tei-c.org/>

- ・ CIDOC CRM <https://cidoc-crm.org/>

- ・ Dublin Core <https://www.dublincore.org/>

- ・ MARC 21 <https://www.loc.gov/marc/>

質問 4：宮川先生は DH(digital humanities)の各種ツールや、CC(Creative Commons, <https://creativecommons.org/>)のことなど、諸々「お作法」をどのように身に付けてこられたのですか？

回答 4：習うより慣れろで、サバイバルで身につけました。